

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 唐澤達之	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1)中世・近世ヨーロッパの兄弟団に関する共同研究への関わり</p> <p>中世後期から近世にかけてヨーロッパ全域で展開した兄弟団 (guild, fraternity, 俗人による宗教的な性格の相互扶助団体) に関する共同研究に参加した。担当は、イングランドの兄弟団の近世における変容を概観することと、イングランドの個別事例の実証研究である。</p> <p>研究作業としては、イングランド宗教改革が兄弟団に及ぼしたインパクトを中心に近年の研究動向を整理する一方、個別事例の対象として設定した近世イングランドの地方都市であるノリッジの聖ジョージ・カンパニー関連の史料収集 (2012 年夏に現地図書館で実施) とその分析を進めた。</p> <p>この共同研究の成果は、東京大学出版会から刊行される予定であり、中世・近世全体、ヨーロッパ全体を見渡した兄弟団研究は日本にも欧米にもないので、刊行されれば画期的な研究となることが期待される。2013 年度の課題は、2012 年度の作業を基礎にして論文を完成させることである。</p> <p>(2)中野忠・道重一郎・唐澤達之編『一八世紀イギリスの都市空間を探る——「都市ルネサンス」論再考——』(刀水書房、2012 年) の刊行</p> <p>本書の出発点は、2006～2008 年度に採択された科学研究費基盤研究 (B)「18 世紀イギリス都市における市民的社交圏の形成」(研究代表者：中野忠) による共同研究である。その成果の一端は、2009 年 9 月に東洋大学で開催された社会経済史学会大会におけるパネル・ディスカッション「18 世紀イギリス都市の社会経済史的意義」(組織者：道重一郎) として発表されたが、このパネルの報告者・コメンテータに新たに執筆者を加えて企画されたのが本書である。</p> <p>日本では、18 世紀イギリスの都市ルネサンスに関する初の本格的な研究である。本書の刊行にあたっては、編者として関わるとともに、拙稿「18 世紀ノリッジの都市自治体と基盤整備——会計簿の分析を中心に——」を収めることができた。2013 年 3 月には、比較都市史研究会と政治経済学・経済史学会の都市経済史フォーラムとで共催された研究会において本書の合評会が行われたが、すでにいくつかの学会誌において書評の対象として取り上げられることが決定しており、学界における評価も定まりつつある。</p> <p>2013 年度は、この共同研究で得た知見を出発点として、近世イギリスにおける都市統治の長期的変化に関する研究を進めたい。</p> <p>2 その他の事項</p> <p>学会における活動</p> <p>比較都市史研究会の幹事として、例会 (年 8 回) の企画、会誌『比較都市史研究』の編集刊行 (年 2 回)、会計の管理などに関わった。</p>	